

# 第6回 正宗文庫セミナー

正宗文庫は、国文学者で歌人の正宗敦夫【まさむね・あつお、明治14年(1881)-昭和33年(1958)、正宗白鳥の弟】が、丹精込めて蒐集した古典籍・文書・短冊類を中心として、昭和11年(1936)に郷里岡山県和気郡伊里村大字穂浪(現 岡山県備前市)に創設した文庫です。

所蔵資料は7,000点(20,000冊)余り、現在は財団法人正宗文庫(正宗千春理事長)によって維持管理運営されています。

## 【参考】

深井紀夫(ふかい かつお)編『正宗文庫所蔵典籍分類目録 郷土関係編』(正宗文庫発行、非売品、1995年)

正宗文庫調査班(小川剛生主編)「正宗文庫目録(五十音順、典籍編)」(『調査研究報告』29号、国文学研究資料館、2009年3月)

正宗文庫監修・小川剛生編『正宗敦夫文集 ふぐらにこもりて』全2冊(東洋文庫、平凡社、2024・2025年)

開催日 2025年 10月11日(土曜日) 13:30~16:00

場所 備前市美術館 1階 講堂  
(住所 〒705-0001 岡山県備前市伊部1659-6 )

挨拶 備前市美術館長 金子 賢治  
一般財団法人正宗文庫理事長 正宗 千春

基調講演 講師 備前市美術館学芸課長 林 順一  
【演題】美濃窯業史から垣間見る備前近代窯業の実態

講演 講師 和歌山大学准教授 長福 香菜  
【演題】『菅沼斐雄家集』の編纂

講師 就実大学教授 川崎 剛志  
【演題】伊部の鉢に竝ぶ宋版一敦夫が寛に見せたもの—

定員 50名

受講料 無料

申込方法 事前申込制 先着順

①Eメール [bunko.seminar@nijl.ac.jp](mailto:bunko.seminar@nijl.ac.jp)

②ウェブフォーム <https://forms.office.com/r/Jp65Kwj9wj>

上記いずれかの方法でお申し込みください。後日Eメールにて受講票を送付いたします。

Eメールの場合は、タイトルを「第6回正宗文庫セミナー申込」とし、本文に氏名、氏名ヨミ、メールアドレスを記入し送信してください。ご記入いただいた個人情報は、当行事運営のために使用します。

受付開始 9月1日(月曜日)

締切 9月30日(火曜日) ただし、定員になり次第締切とします。

主催 国文学研究資料館

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国文学研究資料館  
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3  
HP: <http://www.nijl.ac.jp/>  
E-mail: [bunko.seminar@nijl.ac.jp](mailto:bunko.seminar@nijl.ac.jp)

共催 一般財団法人正宗文庫、岡山県教育委員会、備前市教育委員会  
就実大学人文科学部

お申し込みはこちら



## 第6回 正宗文庫セミナー

### 挨拶

備前市美術館長  
かねこ けんじ  
**金子 賢治**



一般財団法人正宗文庫理事長  
まさむね ちはる  
**正宗 千春**



〔伊部焼朱泥菓子器〕  
(三代松田華山作。与謝野寛・晶子釘彫)  
正宗文庫所蔵

〔伊部焼朱泥急須〕  
(三代松田華山作。与謝野寛・晶子釘彫)  
正宗文庫所蔵

### 基調講演

#### 講師

備前市美術館学芸課長  
はやし じゅんいち

**林 順一** 【演題】美濃窯業史から垣間見る備前近代窯業の実態

正宗文庫に収蔵されている備前焼関連資料を取り上げその意義を考察します。陶磁器産業は、幕末から明治時代にかけて自由競争の厳しい環境にさらされ、その後の状況は産地間で大きく異なっていました。美濃窯の近世・近代の事例をとおして、冬の時代と言われた備前の近代窯業の実態を探ります。

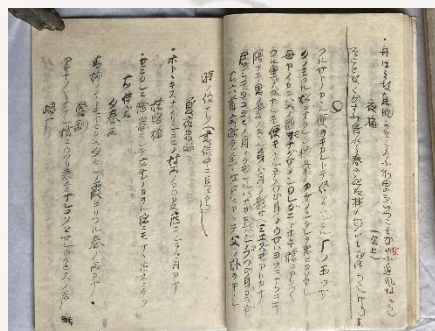
### 講演

#### 講師

和歌山大学准教授  
ちようぶく かな

**長福 香菜** 【演題】『菅沼斐雄家集』の編纂

岡山県笠岡市出身の菅沼斐雄は桂園派を代表する歌人であり、主に江戸で門人の育成に励みました。桂門四天王の一人でありながら、家集がなかったことを憂いた井上通泰のすすめで、正宗敦夫は斐雄の家集編纂に取り組みます。敦夫が筆写し、通泰が校閲を務めた明治33年の稿本や、明治39年に刊行された『菅沼斐雄家集』をもとに、その編纂過程について考えてみたいと思います。



#### 講師

就実大学教授  
かわさき つよし

**川崎 剛志** 【演題】伊部の鉢に竝ぶ宋版 一敦夫が寛に見せたもの一

昭和8年6月、歌人の与謝野寛・晶子夫妻が岡山を訪ねた。最初の訪問先は旧知の正宗邸。正宗文庫創設の3年前で、自宅は書庫も兼ねていた。翌7月、東京に戻った夫妻はさっそく岡山の思い出を詠んだ短歌の連作を発表した。そのなかに「西の窓藤若葉より風わたり伊部の鉢に竝(なら)ぶ宋版」という寛の一首がある。やきものと書物をこよなく愛した敦夫が、嬉々としてそれらを見せたか。この一首は寛の礼状のようにもみえる。



### 場所

備前市美術館

〒705-0001  
岡山県備前市伊部1659-6

### 問い合わせ先



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国文学研究資料館  
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3  
HP: <http://www.nijl.ac.jp/>  
E-mail: [bunko.seminar@nijl.ac.jp](mailto:bunko.seminar@nijl.ac.jp)

お申し込みはこちら

締切

9月30日(火曜日)

